



平成24年に開催した議会の  
状況を報告します

議会開催状況

会議	会期 (日)	本会議 日数 (日)	委員会日数(日)				傍聴 者数 (人)
			総務	産建	文教	決算	
第1回定例会	21	5	2	1	2	0	101
第2回定例会	17	5	1	0	1	0	117
第3回定例会	22	5	1	1	1	2	89
第4回定例会	15	5	1	1	1	0	77
計	75	20	5	3	5	2	384

※総務…総務常任委員会 産建…産業建設常任委員会  
文教…文教厚生常任委員会 決算…決算特別委員会

議員提出付議事件 (件)

区分	議決態様別					計
	可決	否決	継続審議	審議未了	撤回	
条例	1	0	0	0	0	1
規則	1	0	0	0	0	1
意見書	0	0	0	0	0	0
決議	0	0	0	0	0	0
その他	9	0	0	0	0	9
計	11	0	0	0	0	11

市長提出付議事件 (件)

付議事件別		議決態様別			
区分		可決	否決	継続審議	計
自治法第96条 付議事件	条例	24	0	0	24
	予算	17	0	0	17
	決算	6	0	0	6
	その他	13	0	0	13
自治法第179条(専決処分)		3	0	0	3
計		63	0	0	63

※「可決」は、認定、同意、承認等の議決を含みます。

A Q

学校の校務運営体制の改善  
教職員の多忙解消について

高橋 剣二 議員

**質問一** 本市の小中学校において、教職員の多忙という課題が起き始めたのはいつ頃からか。  
**二** 教職員の多忙という課題が年々大きくなっていった理由は。  
**三** 教職員の超過勤務の実態は。  
**四** 平成24年3月に公表された学校における負担軽減検討委員会の

報告書についての見解は。  
**五** 教職員の多忙解消の方策は。  
**答弁一(教育委員長)** 14年度に学校週5日制がスタートした頃を境に顕在化した。  
**二** 社会の価値観の多様化や地域家庭の教育力の低下などによる学校教育への過度の期待があり、ま

た、学校教育が抱える課題の複雑化、多様化も進み、結果として多忙という課題が大きくなった。  
**三** 18年度の文部科学省教職員勤務実態調査によると、1か月の残業時間は平日34時間、休日8時間となっていた。ほかに、教材研究や学級通信等の業務を自宅でやっている実態があった。  
**四** 報告書の内容を各学校に周知するとともに、教育委員会の取り組みの見直しを進め、教職員が子どもと向き合える時間の確保に努めている。  
**五** 改善策として、事前の会議資料の配付や会議時間や内容の精選に努めている。

